

小林まこと・斉藤富士夫マンガ展 大盛況

新潟ふるさと村に八千人が来場

町では、今年の黒崎まつりの行事にあわせて、八月十八日から二十四日まで、新潟ふるさと村で、「小林まこと・斉藤富士夫マンガ展」を開きました。二人とも本町の小・中学校で学び、高校を卒業後マンガ家を志して上京。現在は全国に多くのファンを持つ人気マンガ家です。会場には連日多くの人が集まっています。

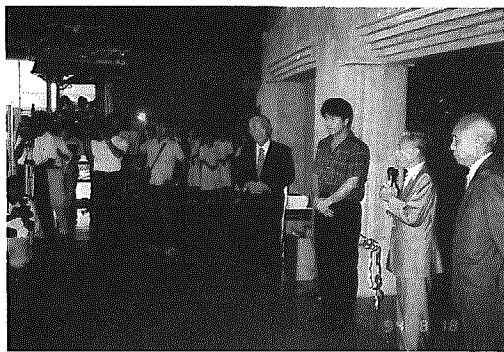
初日の八月十八日は、忙しい合間を縫って、斉藤富士夫さんが東京から駆けつけ、町長らとテープカットをしてオープニング。斉藤さん自身が、作品の説明などをしてくださいました。

また、午後からは斉藤さんがマンガ家を志して上京し、苦勞の末に『激烈バカ』が生まれた体験談を中心とした講演とサイン会が行われ、好評で、特にサイン会は直筆のサインをもらおうと多くの人が列をつくりました。

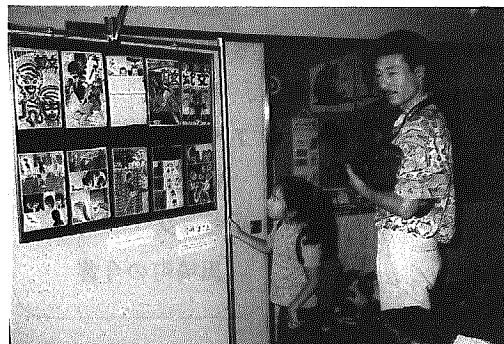
マンガ展は二十四日まで行われ、小林まことさん、斉藤さんの原画約二百枚とキャラクターグッズ、写真などが展示され、七日間で七千八百人の観客が集まり、大好評でした。



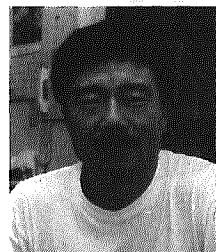
大人から子供まで、多くの人が県内外から来られました。21日の日曜日には2300人も人が入場。



テープカット。浅妻町長、斉藤さん、厚地武ふるさと村村長らが出席

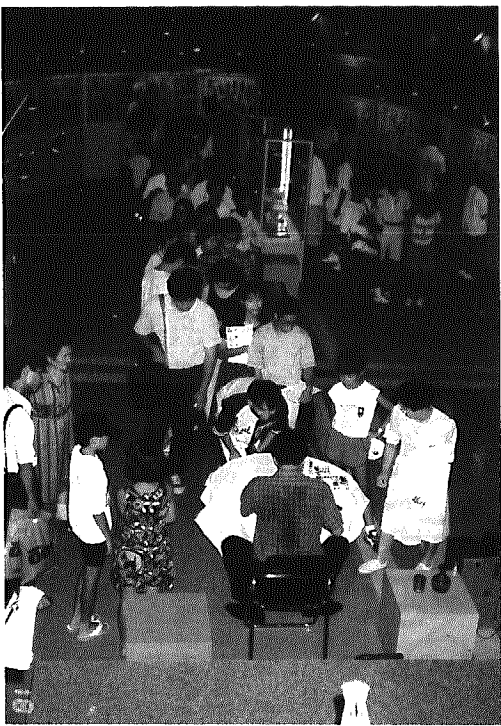


小林まことさんも来られました。連載を2本抱え、超多忙の小林さん。21日の日曜日、「娘が見たいというので」と、ご家族で見えられました。ふるさと村のあたりは小林さんにとって子供のころ遊んだところで、まさに故郷です



小林まこと

昭和33年新潟市に生まれる。山田小、黒崎中の9年間黒崎町に在住。新潟商業高校を卒業。昭和57年デビュー。『1・2の三四郎』『ホワッツ・マイケル』など



斉藤さんのサイン会は長蛇の列。2時間かけて一人一人に丁寧にサインをしていた



マイケルは今でも大人気。原画のなかにぬいぐるみなどのキャラクターグッズも多数展示



パンフレット。A4判8ページ。2000部発行。欲しい人は教育委員会へ

講演会(要旨)

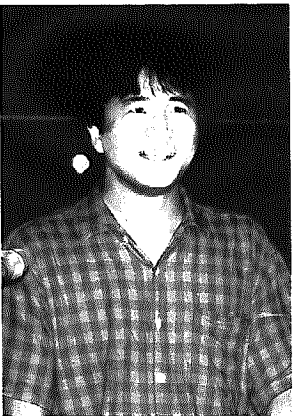
『激烈バカ』を七年間連載

斎藤 富士夫

九月から「頭がビックバン」という漫画を週刊少年マガジンに連載しますが、やっと第一回の原稿があがったばかりで、寝不足で頭がくらくらしています。

「激烈バカ」は、言わば、間に合わせに書いたもの。私自身も編集部もこんなにヒットするとは思っていませんでした。もともとマガジンは、「巨人の星」や「あしたのジョー」など熱血路線の漫画が多く、「激烈バカ」を載せるのはかなり批判もあったので、「単行本を一冊出せばいいな」という程度だったのに七年も続くとは……。お陰で貧乏からなんとか脱出することができま

したよ。(笑)
私は下塩儀(白根市)に生まれ、大野小学校、黒崎中学校に通っています。親には反対されませんが、漫画家になるために東京の大学(法政大学)に進学しました。学費と生活費を自分で稼ぐ案件でね。



アルバイトは本の仕分けな

どをやりましたが、バイトではホームレスの人たちも多くなると聞いたら「日比谷だ」と言うので「いい所にすんでいるんだな」と思っ行ってみたいう日比谷公園だったんですけどね。笑い話もありましたけど。

最初漫画で賞をとったのは、「俺はドラマティック」というストーリー物で少年マガジンの月例ベスト新人賞に入りました。これがマガジンズベシヤルに掲載されてデビューできました。

漫画家として成功するにはよい編集者にめぐり合う事も大切です。私の担当の菅さんとは、もう十年のつきあいになります。デビューした頃の頃は食費やスクリーンをかう金を貸してもらったり、ずいぶん励まされま

した。

「激烈バカ」の作品としての評価は自分自身まだだなどというところがあります。でも単行本を見ると、自分なりに努力してきたつもりで、毎週苦しみながら七年間も本当によくやって来たなと思います。体が資本の仕事なので、胃潰瘍に気をつけてやっています。これからは、連載を始めることは本当に大変です。貧乏は当たり前でも、体は壊さないで下さい。

九月七日発売号からの「頭がビックバン」は自信作ですので、ぜひ見てください。

斉藤富士夫

昭和36年白根市下塩儀に生まれる。大野小、黒崎中、新潟江南高校、法政大学を卒業。昭和60年デビュー。62年から『激烈バカ』を7年間週刊誌に連載し、大ヒット